

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1670300274
法人名	医療法人社団 喜生会
事業所名	グループホームぬくもり
所在地	934-0053 富山県射水市朴木244番地
自己評価作成日	令和5年10月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページ等で閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人 富山県介護福祉士会		
所在地	939-8084 富山県富山市西中野町1丁目1-18 オフィス西中野ビル1階		
訪問調査日	令和5年10月27日	評価結果市町村受理日	令和5年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・今年で開設19年目である。担当医師が事業所開設者であり、入居者の「認知症・精神不安」に対応し、入居者は安心して共同生活を送っています。併設施設に「木戸クリニック・内科・精神科・眼科」老人保健施設があり、医療面と生活支援に対応しているグループホームは県下においても数少ない事業所です。 ・職員は30歳～60歳台で、三分の一の職員が10年以上のベテランです。入居者の少しの変化を見逃さずに【この先の生活】を考えて行動しています。 ・併設施設に月2回訪問歯科診療の実施があり、入居者は年一回の歯科検診後は口腔機能維持に役立てています。また口腔機能維持管理にかかる助言を毎月頂き実施しています。 ・内科、眼科、歯科は職員と一緒に受診しており心身共に安心して暮らせるグループホームです。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

敷地内に同一法人のクリニックや介護老人保健施設が併設され、状態に合った健康管理や生活の場を選ぶことができ、利用者、家族にとって安心して過ごせる環境であり、事業所の強みになっている。 職員は一人ひとりの利用者を大切に思い、個別の介護を充実させていくことに目標を定め、利用者の笑顔を絶やさないよう日々のケアに取り組んでいる。そのため課題等が発生した場合、迅速に職員間で話し合うことを基本とし、職員全員で統一したケアに取り組んでいる。永年勤続の職員が多いことから、職員間の関係性が良好で働きやすく、チームワークの取れたケアが行われていることが確認できる。また、月1回様々な行事計画を立て、レクリエーションやおやつ作りなど利用者と一緒に活動する機会が多く持てるよう支援内容を工夫し取り組んでいる。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ぬくもり」は射水市の方が利用されているグループホームです。理念にある家庭的な雰囲気を実践し利用者は、それぞれの役割をもって生活の向上につなげている。 毎月1日に管理者と職員で理念を唱えている。	事業所開設時に作成されたぬくもり理念「楽しく心やすらぐように…」「家庭的な雰囲気のなかで役割を見出し…」「入居者と職員が一体となり買い物・食事を共に…」「入居者の人格を尊重し、豊かな人生…」の4つのキーワードをもとに支援が提供されている。理念に沿わないケアは職員間で注意を促すなど理念を基本とするケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者が地域とのつながりが途切れない様に対面面会、家族との外出、災害訓練などの支援を実施し交流を図っている。	自治会に加入し、回覧板等で地域情報を確認している。今年度実施された地域総合防災訓練に職員が参加し交流を深めている。また、広大な敷地内には同一法人施設等があり、利用者は来訪する地域住民と挨拶や会話等を交わしながら交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援方法などは、外部に発信する機会が少ないが運営推進会議の場で利用者の支援状況を報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の五月より運営推進会議を再開した。サービスの実践状況については会議に出席された入居者の家族様からの意見を議事録に残し職員で共有しサービスの向上に活かしている。	コロナ禍のため昨年度まで書面開催であったが、今年度から自治会長・市担当者・地域包括支援センター・家族代表が委員となり集合同開催されている。日頃の活動報告の他、災害時の避難方法等を議題に意見交換を行い、自治会長や家族等の意見を参考に課題の改善に取り組んでいる。	持ち回り代表で家族が参加しているが、参加できなかった家族にも会議開催内容が周知されるような取組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは日頃からメールや電話で密にやり取りするよう努めている。 運営推進会議にも参加して頂き積極的な協力関係を構築している。	市から運営に関する情報・地域情報など必要な情報はメール等で随時確認できる体制が整っている。また、今年度、市主催の虐待に関する研修に参加したり、2か月ごとにあったか訪問を受け入れたりしている。運営推進会議には市担当者の参加もあり事業所との密接な関係は整っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修の内容をもとに管理者、職員で勉強会を開き身体的拘束となる具体的な弊害について考え理解を深めている。併設施設の駐車場が目の前に有る為やむをえず玄関の施錠をしている。	内部研修の実施や外部研修に参加した職員からの伝達講習などから、職員は身体拘束に関する知識や技術等を習得する機会が得られている。また、3か月ごとに身体拘束廃止委員会も開催され身体拘束につながらないケアに努めている。特にスピーチロックにつながる言葉かけに留意し、職員全員で注意喚起を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、医師により高齢者虐待防止関連法についての講義を受講し、管理者、職員は虐待は暴力的な行為だけではなく暴言や無視嫌がらせ、必要なケアの放棄等が含まれている事に理解を深めている。ゆとりが持てる環境に注意を払い虐待の見過ごし防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の入居者様の状況を理解し管理者、職員で勉強会を開き権利擁護について学び自己権利を表明する事が困難な認知症の方の自己決定のサポートや代弁し、自分らしく生活できるケアに努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う際は管理者が重要事項説明書に基づいて説明し利用者や家族が内容を理解した上で行っている。 不安なことや疑問に感じる事があればいつでも施設側に質問してもらえるような体制を整え対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望があれば傾聴しその内容をメモに残し管理者を中心に職員間で共有する。 又、課題に向けて解決できるよう話し合いの場所を設け意見交換する事により介護の向上に務めている。	家族等からの意見や要望は、電話連絡時や面会時に聞き取り、把握した内容は職員連絡ノートに記載し職員間で共有している。例えば家族からの体重が増えたという意見に対して、おやつの内容を変えるなど職員ミーティング等で検討し迅速に対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝のミーティングでは、管理者も参加し職員から出る意見、提案等、それぞれの思いを話せる有意義な時間となっている。管理者は一人一人の意見を大事にしながら何が最善かを見極め判断していきながら介護力を高め運営に反映させている。	管理者はミーティング時に聞き取った意見や要望を、職員全体で検討し意見を集約して改善に向けたり、施設長に相談し対策を考えるなど、より良いケアに繋げる努力を行っている。また、日常的に個別の相談に応じたり、管理者から声かけを行って面談するなど職員がいつも前向きに仕事に取り組めるように配慮されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人一人の努力や実績、勤務状況を把握し認めることで各自が責務ある態度で働けると考える利用者に対する思いや介護における姿勢を感じつつ、個人の成長につなげられるよう職場の環境整備、雰囲気作りに力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員一人一人のプラス面を延ばしマイナス面を指導しキャリアに合った研修を受ける機会を設けて次のステップにつなげ人材育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は外部研修に参加し同業者とコミュニケーションを持ち交流を図り質の良いサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者本位のケアができる様本人の意思を尊重し相手の話を常に傾聴し信頼関係を築き安心した生活が送れるように心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と面会をとおして日頃の様子や困っている事を伝達し家族からの要望を聞いて信頼関係が保てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居理由を伺い家族の考えている本人との物理的な距離に近づける支援、サービス利用を提案し専門的な視点から支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事とやりたい事を日々の関わりから見つけていき職員の培った知識や社会経験から無理のないその人らしい人間を尊重できる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時代的に、感染のリスクを減らす対策をとるため面会者の人数制限やバイタルチェックを行っているが、本人の現状を面会時でなく電話でのやり取りの際も伝え関係の維持に務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会制限が緩和されているが、コロナ禍以前の状態のように気軽な交流は難しい為面接基準や交流の仕方などの試行しながら進めている。	今だ新型コロナウイルス感染症の終息に至らないため、面会は予約制で家族・知人の面会に応じている。感染予防をしながら法要で自宅に帰ったり、家族との外出時に外食や買い物、行きつけの理美容室へ出かけたりしている。また、電話、手紙、年賀状等で家族、知人等の交流を支援するなど馴染みの関係継続が図られている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は入居者様同士の関係を把握しておりタオル畳み、洗濯畳みを一緒にして頂くなど入居者同士が関わりを持てるよう支援し孤立しない様努めています。又、ホールの席も配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後は接触することが少なく支援は出来ていません。再入居後は入居者様、ご家族様との関係性を大切にしながら相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの希望、意向を日頃の会話などで把握するように努めています。困難な場合は家族様に協力をお願いして本人の意向に添えるように努めています。	利用者の言動、表情等から日常的に把握される要望等は、職員連絡ノートやぬくもり日誌に記載し、職員間に共有されている。要望等に応えるためミーティング等で話し合い、可能な限り実現に向けた支援を行い利用者の満足に繋げている。家に帰りたいなどの要望は介護計画にも反映させて適切な対応を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活歴を職員全員が把握しその人らしい生活が出来るよう環境を整えて安心して過ごせる様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの身体状態を把握し個々の過ごし方や行動を職員間で情報を共有、記録し心身の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態の観察を行い管理者、職員間で報告、連絡、相談、現状に応じた介護計画を作成している。	職員は担当する利用者のアセスメントの見直しやモニタリングを行い、3か月ごとに見直され介護計画に反映させている。介護計画の見直しにあたって開催されるサービス担当者会議には、医師、看護師、管理栄養士、理学療法士などの専門職がメンバーになり多方面からの助言で見直しが行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者本人が発した言動や職員の気づき、様子に変化等があれば個別ノートに記入しニーズや課題の把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設で老健と木戸クリニックがあり入居者さまの健康管理と治療、行事参加、音楽療法、床屋など柔軟にサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域コミュニティの維持に繋がるようボランティアの受け入れ、地域の祭りの参加等周りの状況を観ながら地域資源との協働に努めたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様の担当医師が同一の敷地内の法人クリニックに在籍して居られる。入居時から月に一度受診し、入居者様は納得の上適切な医療、支援を受けている。	入居時に同一法人クリニックの医師がかかりつけ医になり、月に1度受診している。他科の受診が必要になった場合は、かかりつけ医から紹介状が提示され家族同行で受診している。緊急時においては、医師、看護師と連絡が取れる体制が確保されており、いつでも対応可能である。また、訪問歯科診療も実施されており、健康管理が徹底されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は入居者様の健康状態を把握し、体調変化にいち早く気づき担当医師、看護師に報告、相談、協働している。4週間に1回の定期受診では体調記録紙と様子を伝え適切な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院した際は介護サマリーに情報を記載し、入院先へ伝えている。又、普段からクリニック関係者と情報交換や連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所では重度化時の指針、方針を入居契約時に説明している。重度化した場合早い段階で本人、家族と話し合い医師の判断の下、併設の老健の入所や、病院への入院の支援をしている。	入所時に重要事項説明書に記載されている「重度化に関する指針」をもとに説明し、同意をもらっている。基本的に看取りの実施はなく、早い段階からかかりつけ医を交えて家族と話し合い、思いや希望を聞きながら柔軟な対応に取り組んでいる。尚、食事摂取が難しくなった状態を目安に退所の検討が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は入居者の急変や事故発生時は事業所のマニュアルに沿って対応している。マニュアルの徹底と見直しを随時行い職員が常に理解しているか勉強会など行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	以前は火災の避難訓練が主だったが近年の自然災害を念頭に置きあらゆる災害について随時職員同士で情報を交換し避難する体制を作っている。	年2回の火災訓練は、同一法人敷地内の他施設と合同で行われている。また、地域の地震を想定した総合防災訓練にも参加している。災害時における地域の協力体制は、自治会長が中心になって民生委員等と連携しながらどんな準備が必要かなど考慮中とのことであった。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に接する時は、人格を尊重し尊厳を重んじている。	市主催の権利擁護研修に参加したり、内部研修を行うなど利用者の人権に関して理解を深めている。特に「ちゃん」づけなどの言葉かけに注意をしたり、入浴やトイレ介助に同性介助で行うことに留意したり、利用者に過剰な関りにならないよう介助の希望をきくなどケアに様々な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に添う様に否定しないで居心地の良い生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりその日をどのように過ごしたいか希望に添った援助を心掛けています。又、意思表示出来ない入居者様には、特に目配り、気配り、心配りを配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしく過ごせる様支援しています。ご本人や、ご家族の意向により併設施設の床屋を利用しています。衣類は季節ごとに家族に連絡し職員が入れ替えを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の野菜を取り入れたり入居者様の意見を参考に献立をたてています。行事の時は特別なおやつを提供して大変喜ばれています。	朝食の副食は同一法人施設から提供されるが、昼・夜の食事は職員が利用者と一緒に調理している。献立も一週間前に利用者の希望を聞きながら作成し食材の注文を行っている。新型コロナウイルス感染症まん延前は利用者と一緒に買い物に出かけていたが、今は控えている。また、誕生会、敬老会、お花見などの行事食にも配慮して食事や間食が楽しくなるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、おいしく食べてもらえるように心がけています。一人ひとりが食べる量、水分量を把握し、一日を通して体調観察に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状況に応じてお声掛けをして義歯など洗える方にはして頂き、洗いのこしなどは職員で行っている。義歯洗浄後は毎日義歯洗浄剤を使用して清潔保持に努めています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を元に一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレやポータブルトイレでの排泄支援に努めている。トイレに自分で行くが失敗のある方には自尊心を傷つけないように配慮しながら交換している。	排泄チェック表から個々の排泄リズムを把握し、声かけ誘導を行っている。また、夜間の排泄方法におむつを使用したり、ポータブルトイレを利用するなど利用者の身体状況に合わせて支援方法が変えられており、利用者の安眠や自立に配慮した支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分を多く摂取できるようにご本人の好みに合った飲み物を提供し個々に応じた対応をしている。毎日、リハビリ体操にするなど規則正しい生活が送れるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の体調確認し、週2回入浴している。不都合時は、全身更衣をして清潔保持を心掛けている。介助時は必ず声掛けしてリラックス出来るように配慮している。	基本的に週2回の入浴であるが、希望があればいつでも入浴が可能であり、また、清拭、足浴等で柔軟に保清に取り組んでいる。できるだけ同性介助に配慮し、安心して入浴してもらえるよう支援している。季節感を味わってもらうため、ゆず湯にするなど入浴を楽しんでもらえるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせた部屋作りのため、ベッドの位置、高さの調整、寝具は動きやすいようにセットし転落防止の為ベッド柵を付ける。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の体調、薬品情報を職員で理解把握し、服薬管理を行い様子を観察し日々の生活を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者とのコミュニケーションを図りレク、ゲーム、家事手伝いなど一緒に出来る事、楽しめる時間を有意義になるよう見守っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は、家族の希望を優先している。行事などの外出は、本人の希望を把握し、できるだけ出掛けられるように務めている。	天気の良い日には、広大な同一法人敷地内を散歩し、訪れている地域住民と交流するなど開放的である。ドライブにはバラ園や花見に行ったり、今後の計画におとぎの森、古城公園への外出が予定されている。また、家族との外出も頻回に行われ、買い物、外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症対応型の為、現状ではお金の所持や使用は難しいが今後は支援できるように努めていきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	契約時に電話と手紙の取り次ぎを確認しており、本人が取次ぎを希望した際は、契約時手順に従って支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の殆どを、毎朝職員が掃除をしている。その時に不快や混乱をまねく刺激に対しては環境整備を適切に行っている。また生活感や季節感がわかる様に室内装飾を工夫している。	フロア内に台所、6畳の畳敷き小上がりがあり、家庭的な環境が整っている。窓越しに田園が広がり閑静な雰囲気四季を感じることができる。また、玄関からフロアにつながる廊下から坪庭に出ることができ、また、その廊下の壁面には利用者の作品が掲示されて、来訪者等誰でも目にすることができるよう工夫されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の全てには、椅子が置いてあり入居者が好きな時に何時でも座れる事ができるようになっている。予約面会時は、共有空間の渡廊下でプライバシーを保ちつつゆったり過ごせるような居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、まず本人の身体状況を観察後、生活しやすいように工夫している。例えば、一人でトイレに行ける場合はトイレに近い居室にする。居室内は、本人の馴染みの物を置き本人の居心地よく過ごせるように工夫している。	居室内にエアコン、ベッド、整理タンスが設えてあり、利用者の身体状況に合わせて、ベッドの機種を変えたり、位置を変えるなど過ごしやすい環境が整えられている。また、転倒防止や利用者の動線を考えて家具を配置するなど自立に向けた工夫がされている。居室内は思い思いに飾り付けがされ、利用者の一室には、100歳のお祝いの額や写真が飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部は、食堂ホールを中心にしてその周りに個々の居室がある。ホールには、大きめなソファがあり入居者が自宅にいる様に使用している。ソファの敷物は滑り止めを使用しており安全面も工夫している。		

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム めくもり

作成日: 令和 5 年 11 月 17 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4 (3)	・運営推進会議開催時の資料は参加者のみに渡していた。 ・欠席の場合は資料を配布していた。	・サービスの実践状況、取り組みを周知して事業所の理解を深めて頂く。 ・周知する事で、家族、職員と情報の共有を図りサービス向上に活かす。	・運営推進会議開催時の資料は請求書に同封し発送する。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

3 サービス評価の実施と活用状況

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】		
実施段階		取 り 組 ん だ 内 容 (↓ 該当するものすべてに○印)
1	サービス評価の事前準備	☐ ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話合った
		☐ ②利用者へサービス評価について説明した
		☐ ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
		☐ ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
		☐ ⑤その他()
2	自己評価の実施	☐ ①自己評価を職員全員が実施した
		☐ ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話合った
		☐ ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話合った
		☐ ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
		☐ ⑤その他()
3	外部評価(訪問調査当日)	☐ ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		☐ ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		☐ ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
		☐ ④その他()
4	評価結果(自己評価、外部評価)の公開	☐ ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話合った
		☐ ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話合った
		☐ ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話合った
		☐ ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話合った
		☐ ⑤その他()
5	サービス評価の活用	☐ ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		☐ ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
		☐ ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
		☐ ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
		☐ ⑤その他()